

第3回 NPO法人

口から食べる幸せを守る会

全国大会 in 横浜

プログラム・抄録集

一広げよう！食べる幸せ一

会期：2015年7月11日(土)

会場：神奈川県民ホール

主催：NPO 法人口から食べる幸せを守る会[®]



i n d e x - 目次 -

ご挨拶	P2
プログラム	P3
参加者の皆様へ	P4
座長・演者の皆様へ	P5
会場案内図	P6
会場案内図 » P6 ・ 展示配置図 » P7	
各講演	P8
・ 基調講演 » P8～ ・ 教育講演 » P10～ ・ 特別講演 » P12～ ・ イブニングセミナー » P14～	
シンポジウム・一般口演・ハンズオンセミナー	P16
・ シンポジウム » P16～ ・ 一般口演 » P22～ ・ ハンズオンセミナー » P28～	
共催・企業出展一覧	P30
企業広告	P31
歌詞	P36

ご挨拶



第3回 NPO 法人口から食べる幸せを守る会
全国大会 大会長 小山 珠美

2015年7月11日（土）に第3回 NPO 法人口から食べる幸せを守る会全国大会 in 横浜を神奈川県民ホールで開催させていただきます。

今回の大会スローガンは“広げよう！食べる幸せ”としました。我が国における高齢化率は今後も高まり、平均寿命は延び続けていくことが予想されます。人間が年をとっても幸せに生き続けられる要は“美味しく食べる”ことです。一方、要介護高齢者の増加や肺炎で亡くなる高齢者も増えてきており、口から食べたい希望と対峙しなければならない実情があります。考え方は個人により様々ですが、多くの方々は、人生の最期まで食べ続けたいと願っているのではないのでしょうか。

折しも、2014年度の胃ろう造設術の減算、経口移行促進加算という診療報酬改定に引き続き、2015年度の介護報酬においても、「要介護高齢者の口から食べる楽しみの支援の充実」という文言が織り込まれることになりました。要介護高齢者が食事の経口摂取が困難となっても、自分の口から食べる楽しみを得られるよう、多職種による支援の必要性が明文化されています。ここ数年で、社会全体も「食べる楽しみと幸せ」へと優しい風が流れてきています。

本大会が更なる「食べる幸せ」への架け橋となり、「食べたい・食べさせてあげたい」という願いの実現が全国各地に広がりを増すことを期待しています。包括的な食支援技術、肺炎高齢者への食支援における学術的知見、多職種協働による有機的なネットワーク拡充などのプログラムを関係者で企画いたしました。多くの皆様にご参加いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

2015年7月11日

プログラム

第3回 NPO 法人口から食べる幸せを守る会®全国大会

時間	小ホール	大会議室	
9:30~10:00	受付開始		企業展示
10:00~10:15	オリエンテーション		
10:15~11:00	基調講演 【日本摂食嚥下リハビリテーション学会公認セミナー】 ”食べる”を支援するための包括的支援技術 演者：小山珠美／座長：古屋聡		
11:00~11:10	休憩		
11:10~11:55	教育講演 【日本摂食嚥下リハビリテーション学会公認セミナー】 口腔のサルコペニアと摂食嚥下障害 ～高い技術の連携で食べる幸せを～ 演者：藤本篤士／座長：金志純	11:10～12:20 食事介助スキルアップ ハンズオンセミナー (初心者向け) ※有料セミナー	
11:55~12:25	特別講演 地域を上げた肺炎死亡率 10%減を 目指した取り組み～気仙沼の挑戦～ 演者：成田徳雄／座長：谷 恭子		
12:25~12:35	休憩		
12:35~13:00	総会(2014年度会員のみ)		
13:00~13:50	休憩		
13:50~14:35	口演4題 座長：一瀬浩隆	口演4題 座長：黄金井 裕	
14:35~14:45	休憩		
14:45~16:45	シンポジウム 誤嚥性肺炎に挑むパート2～広げよう！食べる幸せ～ シンポジスト：前田圭介・若林秀隆・榎本淳子・小山竜也 奥山昭子(当事者ご家族)／座長：社本 博・竹市美加		
16:45~17:00	休憩		
17:00~17:45	イブニングセミナー 【日本摂食嚥下リハビリテーション学会公認セミナー】 高齢者の摂食嚥下・栄養に関する 地域包括的ケアについて ～相談窓口と実務支援を広げていくために～ 演者：戸原 玄／座長：小山珠美		
17:45~18:00	閉会挨拶・終了		
19:00~21:00	懇親会		

参加者の皆様へ

1. 配布物について

・オレンジ色のコングレスバッグの中には、①抄録集②ネームホルダー（ネームカード入）③ボールペン④各企業広告⑤各案内などが入っております。配布物のご確認をお願い致します。不足がございましたら受付にてお知らせください。ご着席しましたらネームカードにお名前をご記入いただき、必ずネームホルダーに入れてご着用ください。大会終了後は、受付ボックスにネームホルダーのみご返却をお願い致します。

2. 手荷物の管理およびクロークについて

・お手荷物は各自で管理し、大きな荷物はクロークにお預けください。会場内での紛失や盗難について本会では責任を負いかねますのでご了承ください。クローク受付時間は 9:30～18:00 です。

3. ご昼食・ご休憩等について

・小ホールは飲食禁止となっております。また館内での飲酒もできません。昼食・ご休憩をとる際は、6F 大会議室をご利用くださいますようお願い致します。但し、下記の時間帯はハンズオンセミナーおよび口演会場となります。

*ハンズオンセミナー（11：10～12：20）

*口演会場（13：50～14：35）

4. 会場の利用にあたって

- ・会場施設内は全て禁煙です。携帯電話・スマートフォンのご使用もお控えください。
- ・災害発生時は、各会場で避難のアナウンスがありますので、指示に従ってください。

5. 会場内での写真撮影や録音について

・著作権とプライバシーの関係で禁止させていただきます。特にスライド画面の SNS などの投稿は行わないでください。なお、本大会本部で許可をした関係者や取材者は撮影を行います。ご理解・ご協力をお願い致します。

6. アンケートご回答のお願い

・本大会でのご意見・ご感想をいただき、今後の活動に反映したいと考えています。7月11日～18日の1週間、当ホームページに【第3回全国大会アンケート記入ページ】を作成しております。皆様、ご協力くださいますようお願い申し上げます。『HP：<http://ktsm.jimdo.com/>』

演者・座長の皆様へ

座長の皆様へ

- (1) 受付は、該当セッションの開始1時間前までに行ってください。
- (2) 各セッションの進行は、座長に一任いたしますが、限られた時間内にて発表が円滑に進行するようご配慮ください。
- (3) 座長の方は担当セッションの開始10分前までに「次座長席」にご着席ください。

演者の皆様へ

- (1) 受付は、該当セッションの開始1時間前までに行ってください。
- (2) 発表用データ（USB等）は「演者・座長受付」へ、担当セッションの1時間前までにご提出ください。トラブル回避のため、必ずバックアップメディアをご用意ください。
- (3) 発表にご自身のPC本体を持ち込まれる方は以下を忘れずにご持参ください。
 - ・ACアダプター
 - ・外部出力用コネクター
 - ・電源(AC)アダプター（バッテリー切れ防止のため）液晶プロジェクターとの接続は、D-sub15pinの外部出力端子です。専用のアダプターが必要な場合は、ご自身でご持参ください。
- (4) 音声や動画をご使用の場合は当日10時までに「演者・座長受付」にお知らせください。
- (5) 発表は、座長の指示に従い、時間厳守でお願い致します。
- (6) 演者の方は担当セッションの開始10分前までに「次演者席」にご着席ください。
- (7) 発表用データはいったん発表用パソコンに保存しますが、終了後に責任を持って消去いたします。

会場案内図

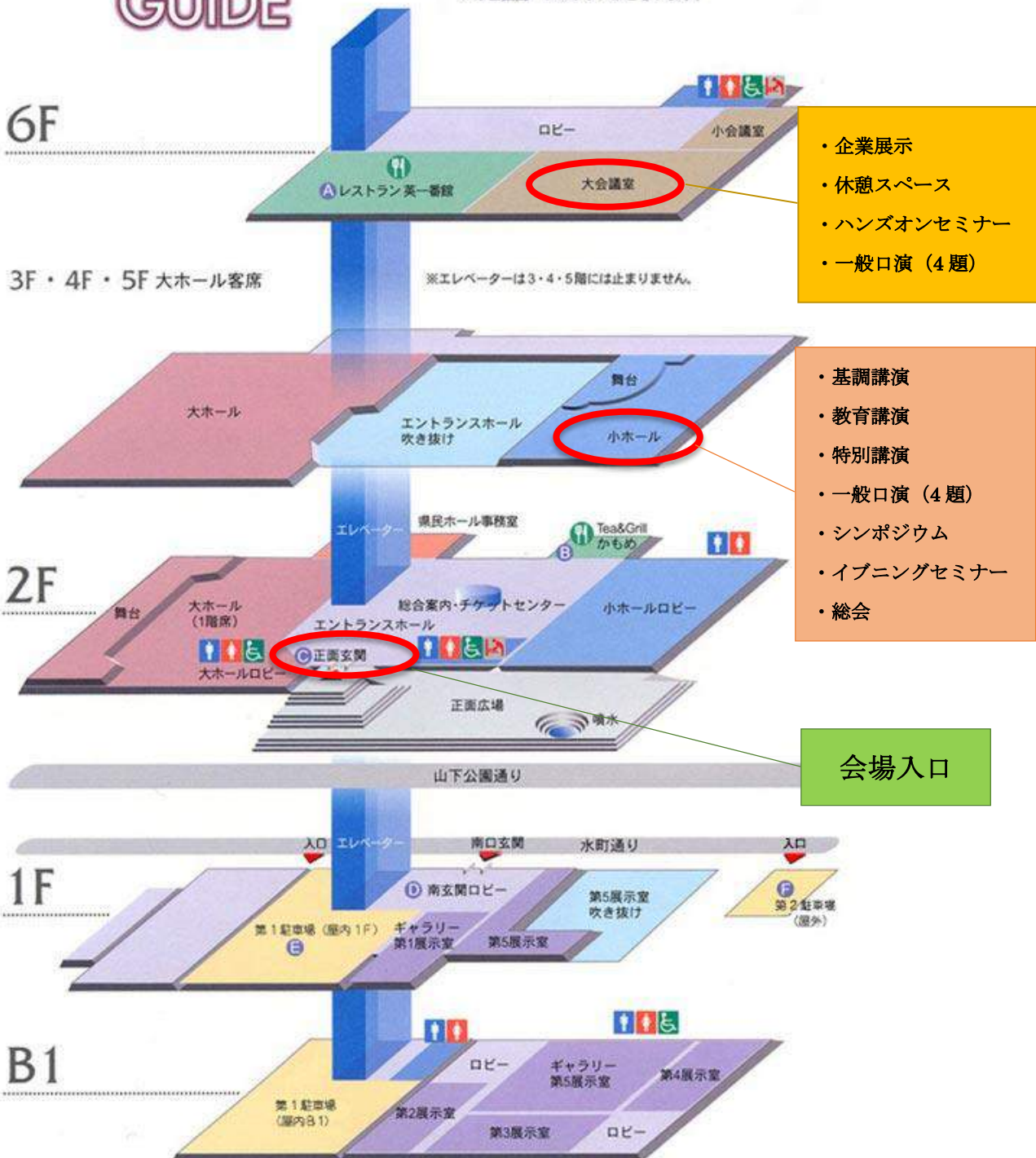
会場：神奈川県民ホール（〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町3-1）

アクセス：・みなとみらい線日本大通り駅3番出口より徒歩約6分

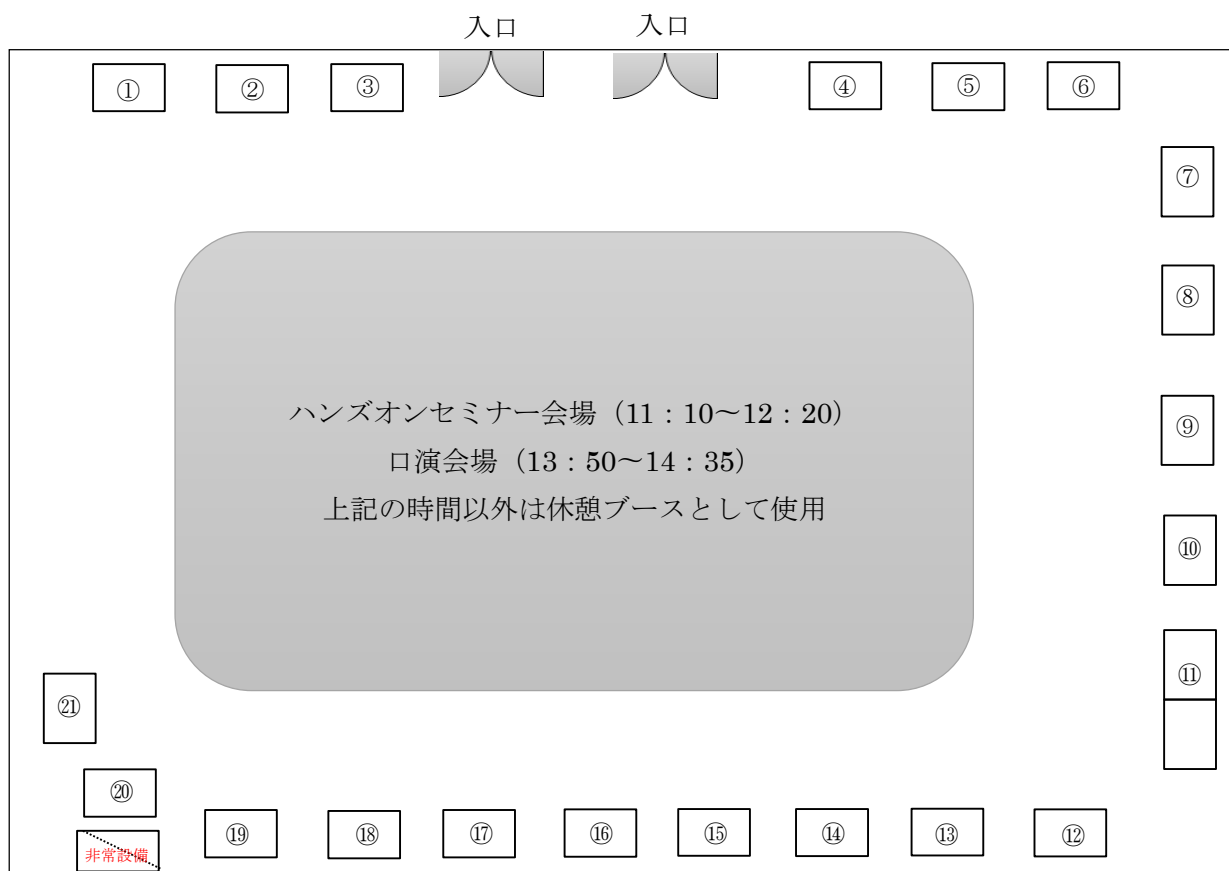
・JR根岸線・市営地下鉄関内駅より徒歩約15分

FLOOR GUIDE

山下公園通りに面した正面玄関から入ると2Fエントランスホールを中心に大ホールと小ホールの入口、喫茶店があり、さらに1F・B1にはギャラリー、6F（エレベーター使用）には会議室・レストランがございます。



大会議室（展示配置図）



- | | |
|--------------------|------------------|
| ①カイゲンファーマ株式会社 | ⑫株式会社土倉 |
| ②渡辺商事株式会社 | ⑬ニプロ株式会社 |
| ③日清オイリオグループ株式会社 | ⑭ニュートリー株式会社 |
| ④株式会社クリニコ | ⑮株式会社東京技研 |
| ⑤ラックヘルスケア株式会社 | ⑯株式会社天柳 |
| ⑥株式会社ニシウラ | ⑰キューピー株式会社 |
| ⑦株式会社フードケア | ⑱キッセイ薬品工業株式会社 |
| ⑧株式会社ヘルシーネットワーク | ⑲ビーンスターク・スノー株式会社 |
| ⑨株式会社明治 | ⑳イーエヌ大塚製薬株式会社 |
| ⑩株式会社オーラルケア | ㉑株式会社大塚製薬工場 |
| ⑪東洋羽毛首都圏販売(株)横浜営業所 | |

(敬称は省略させていただきました)

基調講演

座長：NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事

山梨市立牧丘病院 院長 医師 古屋 聡

演者：NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長

看護師 小山 珠美

“食べる幸せ”をサポートするための包括的支援スキル

NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 看護師 小山 珠美



当 NPO 法人は 2013 年度より始動し、人としての尊厳ある食支援の重要性について啓発活動を継続してきた。その中でも、食べる権利を剥奪せず、安全で QOL を高める食生活を支援できるような発信と人材育成に力を注いできた。食べたい希望を実現できる人材こそが真に求められる専門家であり、そこに向かう努力と進化が、多くの食べることに困難を有した人々への福音となり、希望の架け橋になると考えているからである。

その主たる活動が、少人数での OJT に準拠した KTSM 実技セミナーである。2013 年 6 月～2015 年 5 月までに全国で 15 回実施し、約 500 人（延べ人数）が受講、総勢 100 人のアドバイザーが対応した。その流れから、食べることに困難を有した人々への実践力、実務教育力、マネジメント能力の高い人材の育成を行ってきた。現在 36 名の KTSM 実技認定者が誕生しているが、今後さらなる可能性へと挑むことができる実技認定者をより多く輩出したいと考えている。

とはいえ、認知症を含めて食べる機能が複雑に低下している人々への食支援技術が医療福祉関係者に浸透しているとは言い難い。対象となる人々を生活者として捉え、QOL を考慮した多面的なアプローチが求められるにも関わらず、誤嚥性肺炎との対峙からも口から食べることへの考え方や対応の仕方は様々である。特に食べることに困難を有した人々は、栄養や嚥下機能の不足面だけに着目され、食べたい希望が叶わないままの生活を余儀なくされている場合も少なくない。

要介護高齢者の口から食べる希望と満足を実現するためには、対象者を生活者として主観的・客観的・包括的に評価し、機能や能力の不足部分を補いつつケアを充実させた上で、良好な能力や可能性を見出しアプローチしていくことが大切である。

本講演では、「口から食べるサポート」を医療・福祉・在宅でも包括的・簡易的に評価し、強みへ働きかけることのできるツールとして多職種で開発した包括的食支援ツール（口から食べるためのバランスチャート）を用いたアプローチの有用性について紹介する。

～略歴～

小山珠美（こやまたまみ）

1978.4 神奈川県総合リハビリテーション事業団 神奈川県リハビリテーション病院

1987.4 同事業団 厚木看護専門学校 看護第一学科 専任教員

1995.4 同事業団 七沢リハビリテーション病院脳血管センター 看護師長

2001.4 同事業団 神奈川県リハビリテーション病院 看護師長

2005.4 愛知県看護協会 認定看護師教育課程「摂食嚥下障害看護」主任教員

2006.4 社会医療法人社団 三思会 東名厚木病院

2015.4 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院 看護部

教育講演

座長：東京小児療育病院 看護師 金 志純

演者：医療法人溪仁会札幌西円山病院 歯科診療部長
歯科医師 藤本 篤士

口腔のサルコペニアと摂食嚥下障害

～高い技術の連携で食べる幸せを～

医療法人溪仁会札幌西円山病院 歯科診療部長
歯科医師 藤本 篤士



私が勤務している札幌西円山病院は平均年齢が約 83 歳の高齢者が約 800 人入院しており、さらに隣接する介護老人福祉施設、ケアハウス、グループホーム、通所リハ、通所介護利用者を含めると約 1100 人もの高齢者が一つ屋根の下で生活している施設です。いわば人生の最後 10 年位を目の当たりにしながら、歯科臨床に携わって約 20 年になります。その臨床経験から、高齢者が「食べる」ことに、加齢や廃用、低栄養、疾患などを原因とするサルコペニア（筋肉減少や筋力減弱）が大きな障壁となっていると感じています。

このサルコペニアが摂食嚥下に関連する筋肉でみられても、なかなか視覚的に認知することができず、機能低下による症状としての「ムセる」「口腔内に食渣が残る」などという症状は、サルコペニアが原因とは捉えられず、単に義歯が合っていない、歯がちゃんと治療されていないのが原因などと誤解されている面も少なくないと思われます。しかし、このような口腔のサルコペニアに対して、口腔の機能訓練はもちろん、舌接触補助床（PAP : Palatal Augmentation Plate）や軟口蓋挙上床（PLP : Palatal Lift Prosthesis）、顎補綴などの嚥下補助床による、いわば口腔内装置による専門的歯科治療は大きな効果が期待できる症例も少なくありません。

私たち歯科医師はこのような専門性の高い高度な技術と知識によって口腔のサルコペニアに立ち向かうことができます。しかしこれは歯科に限ったことではなく、全ての職種の方々も各々の専門性の高い、高度な技術と知識によって「食べる幸せ」の数々の障壁に立ち向かうことができるはずです。「食べさせたい」という思いだけではどうしようもないことは、現場で働くみなさんが肌で感じていることではないでしょうか？

この会は理事長小山珠美先生を頂点とした、高い技術と知識を持った真のプロの集団として、各領域のプロを育成し、「食べる幸せ」を全国に広めるべく発展していくことを望んでやみません。

～略歴～

藤本篤士（ふじもとあつし）

昭和 61 年 北海道大学歯学部（14 期）卒業

平成 02 年 北海道大学大学院修了 歯学博士 市立釧路総

合病院歯科医長

平成 03 年 北海道大学歯学部 歯科補綴学第二講座 助手

平成 08 年 現職

編著書

5 疾病の口腔ケア 医歯薬出版

サルコペニアの摂食・嚥下障害 医歯薬出版 他

役職

北海道大学 歯学部 臨床教授

日本静脈経腸栄養学会 代議員 学術評議員

日本リハビリテーション栄養研究会 副会長

特別講演

座長：たに歯科クリニック 歯科衛生士 谷 恭子

演者：気仙沼市立病院 脳神経外科

宮城県災害医療コーディネーター

医師 成田 徳雄

地域をあげた肺炎死亡率 10%減を

目指した取り組み—気仙沼の挑戦—

気仙沼市立病院 脳神経外科

宮城県災害医療コーディネーター 医師 成田 徳雄



東日本大震災後に被災地では入院肺炎症例が急増した。肺炎症例の疫学的特徴と、気仙沼災害医療における肺炎対策活動を検証し、その成果について報告する。「震災後入院肺炎の疫学的特徴」発災後の週単位に入院肺炎罹患率は5.7倍、肺炎に関連した死亡率は8.9倍に上昇した。避難所からの入院肺炎症例は多いが、死亡率は低い傾向にあった。一方、介護施設からの入院症例死亡率は45%と高かった。起因菌は一般市中肺炎と同様であった。「肺炎球菌ワクチン接種」肺炎対策として、5月以降、外部支援による計5,325名の高齢者住民に肺炎球菌ワクチン（PPV23）無償接種を行った。同時期の被災地宮城県と山形県の肺炎球菌肺炎症例の比較研究において、同症例の死亡率を有意に低下させたとの報告がある。しかし、事業として、震災後肺炎に対しての成果のエビデンスは得られていない。「気仙沼市立病院入院肺炎症例の推移」気仙沼市立病院における、震災前1年から震災後4年までの年間ごとの入院肺炎症例数・死亡症例数の推移を検討した。2012年は2010年同様であるが、2014年では発災前比較で、入院症例数で35%減、死亡例数は30%減と低下傾向を示している。ただし、2014年度の肺炎入院症例における死亡数の割合は約30%であった。「考察」震災後4年が経過して、気仙沼市立病院の入院肺炎症例・死亡数は減少しているが、その成果は肺炎球菌ワクチン接種事業のみでは説明できない。発災直後からの摂食嚥下リハ専門職による外部支援活動が、地域の介護施設を含めた関係機関へ展開され、地域における“底上げ的”な摂食嚥下の技術向上が寄与しているものと考えている。「おわりに」気仙沼において、口から食べる幸せを甘受し、また肺炎を恐れるあまりに口から食べる取り組みを萎縮することないように、さらには肺炎死亡率を減少させる活動を継続していきたい。口から食べる取り組みは、気仙沼において地域包括ケアの具体的な成果事例になりつつある。

～略歴～

成田徳雄（なりたのりお）

秋田県出身

昭和61年 山形大学医学部卒業

東北大学脳神経外科教室入局

平成8年 米沢市立病院脳神経外科科長

平成17年～ 気仙沼市立病院脳神経外科科長

平成23年～ 宮城県災害医療コーディネーター併任

平成24年～ 京都大学医学部臨床教授併任

東北大学医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳卒中学会専門医

役職

宮城県対脳卒中協会評議員

宮城県リハビリテーション医会世話人

みやぎメディカルライフセービング協会理事

日本医療福祉設備協会ガイドライン BCP 実務編アドバイザー

イブニングセミナー

座長：NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長
看護師 小山 珠美

演者：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野
准教授 歯科医師 戸原 玄

高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについて

～相談窓口と実務支援を広げていくために～

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野
准教授 歯科医師 戸原 玄



超高齢社会である日本では、肺炎による死亡数は昨年度3位となった。その原因は人口の高齢化により誤嚥性肺炎が増加したためと考えられている。誤嚥は摂食嚥下障害により起こるが、その状態を正確に把握するためには精査が必要になる。しかし、全ての患者に対して環境が整っているとは言いがたいのが現状であり、特に通院できない患者への対応を困難としている。

現在の日本では入院中にリハビリテーションを十分に行うことができないまま退院もしくは転院するケースが多い。嚥下障害が残存している状態で在宅へ移行する患者が多いが、その先で何も行われなくなる、もしくは退院時の状態が永続的なものとされて対応が続けられることが多い。特に今後の日本においては訪問診療が必要とされる場面が増加する。摂食嚥下リハビリテーションを考える際の視点としては、“訓練”という目線ではなく、退院後安定した生活を送るにあたって栄養摂取方法を見直すという視点が重要なのであり、改めて地域での連携が重要になる。今回は過去に行った胃瘻に関連する調査の内容も含め、さらに現在厚労化研にて進行中である地域連携の研究班の内容も紹介しつつ経口摂取を支えるためにできることを考えてみたい。

～略歴～

戸原 玄 (とらはるか)

- 1997年 : 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
- 1998-2002年 : 東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野大学院
- 1999-2000年 : 藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究生
- 2001-2002年 : ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション科研究生
- 2003-2004年 : 東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科 医員
- 2005-2007年 : 東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科 助手
- 2008-2013年 : 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 准教授
- 2013年— : 東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野 准教授

シンポジウム

誤嚥性肺炎に挑むパート2～広げよう！食べる幸せ～

座長：南相馬市立総合病院 脳神経外科 医師 社本 博

座長：NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事

ナチュラルスマイル西宮北口歯科

看護師 竹市 美加

演者：玉名地域保健医療センター 摂食嚥下栄養療法科

医師 前田 圭介

演者：横浜市立大学附属市民総合医療センター

リハビリテーション科 医師 若林 秀隆

演者：一般社団法人 玉名郡市医師会立

玉名地域保健医療センター

医療連携室 看護師・社会福祉士 榎本 淳子

演者：社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑

主任介護士兼介護支援専門員 小山 竜也

演者：当事者ご家族 奥山 昭子

誤嚥性肺炎治療は包括的ケアが鍵を握っている

玉名地域保健医療センター

摂食嚥下栄養療法科 医師 前田 圭介



長寿国家である本国では、誤嚥性肺炎の予防と治療が重要視されている。従来、日本の医療は、医師の診断と薬の投与、手術（処置）で完結しているかのように考えられてきた。しかし、アセスメント、保清、栄養管理、リハビリテーションなど医師の診療以外の行為が患者の生命と身体機能予後、生活の質に大きくかかわっているであろうことも叫ばれてきている。誤嚥性肺炎は市中肺炎（CAP）、院内肺炎（HAP）、医療・介護関連肺炎（NHCAP）のすべてに関連した肺炎であり、廃用症候群や重度の嚥下障害、在宅復帰困難となるケースも多くみられることから、医師の治療のみならず多職種で関わるべき代表的な疾患であるにとらえられる。

誤嚥性肺炎に多職種が関わるべき理由はいくつかある。まず一つ目に、誤嚥性肺炎患者は高齢であり要介護状態のものが多い。疾病の治療だけに目が行くことなく、身体機能を考慮した日常のケアを治療中に中断してはならない。二つ目に、誤嚥性肺炎患者は低栄養で体力がない。医師は患者の栄養摂取状況に無頓着であることが多い。管理栄養士や栄養サポートチームが常にモニターしながら支援すべきである。三つ目に、程度の差はあれ摂食嚥下障害を有している。一日に三回ある食事のケアはコメディカルが中心に行われる。誤嚥リスクを最小限にした食事法にスタッフの力が必要である。高齢者誤嚥性肺炎の治療ゴールは肺炎が治癒することだけではなく、その先の在宅復帰や機能維持にある。発病前の身体機能、摂食嚥下機能を的確に評価し、治療中に積極的な介入を行い、肺炎治療のゴールを達成することこそ私たちが目指す医療だと考える。本シンポジウムでは、高齢者肺炎治療に有用な包括的ケアのエビデンスを示しながら、私たちがやるべきこと、やるべきではないことなどについて論じたい。

～略歴～

前田圭介（まえだけいすけ）

医師・博士（医学）

1998年 熊本大学医学部卒業

1998年 熊本大学医学部第二外科（現 消化器外科）入局

2007年 民間リハビリ病院を経て

2011年 玉名地域保健医療センター（現職）

摂食嚥下栄養療法科 内科医長

NST チェアマン

専門は摂食嚥下障害、サルコペニア、老年医学

サルコペニアの摂食嚥下障害をいかに予防し治療するか

横浜市立大学附属市民総合医療センター
リハビリテーション科 医師 若林 秀隆



全身とともに嚥下関連筋にサルコペニアを認めると、サルコペニアの摂食嚥下障害を生じることがある。誤嚥性肺炎後は特にサルコペニアの摂食嚥下障害を生じやすい。誤嚥性肺炎後は高齢者に多く急性炎症による侵襲を認める。急性期に「とりあえず安静」「とりあえず禁食」とされやすいため、廃用性筋萎縮を合併しやすい。禁食時に水電解質輸液のみで栄養管理されると、飢餓を合併する。つまり、誤嚥性肺炎ではサルコペニアの4つの原因である加齢、活動、栄養、疾患をすべて合併しやすい。その結果、誤嚥性肺炎の前は老嚥や軽度の摂食嚥下障害であったにもかかわらず、誤嚥性肺炎後に重度のサルコペニアの摂食嚥下障害となることがある。

サルコペニアの摂食嚥下障害の予防と治療では、摂食嚥下リハビリテーションと栄養改善の併用が必要である。高齢の肺炎入院患者では、入院後2日以内に経口摂取を開始した場合、より早期に経口摂取で退院できる。障害高齢者生活自立度ランク J、A、B の場合、ランク C の場合と比較してより早期に経口摂取で退院できる。また誤嚥性肺炎では、入院後3日以内に理学療法を開始すると死亡率が低下する。EAT-10 で評価した嚥下障害は、低栄養と ADL 制限と関連する。つまり、誤嚥性肺炎の前から栄養状態と ADL をより良好に保つことと、誤嚥性肺炎後に早期離床と早期経口摂取を徹底することが大切である。

誤嚥性肺炎では低栄養がサルコペニアの摂食嚥下障害の一因であるため、栄養改善を目指した攻めの栄養管理を行わないとサルコペニアの摂食嚥下障害の改善は難しい。炎症の強い異化期は、1日エネルギー投与量 15~30kcal/kg/程度の維持的な栄養管理を行う。一方、侵襲が同化期に移行後 (CRP3mg/dl 以下が1つの目安)、1日エネルギー必要量=1日エネルギー消費量+エネルギー蓄積量 (1日 200~750kcal) として栄養改善を目指す。

~略歴~

若林秀隆 (わかばやしひでたか)

平成7年横浜市立大学医学部卒業

平成25年4月 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科臨床疫学研究
室入学 (社会人大学院)

平成7年5月~日本赤十字社医療センター内科研修医

平成9年5月~横浜市立大学医学部附属病院リハビリテーション科

平成10年6月~横浜市総合リハビリテーションセンターリハビリテ
ーション科

平成12年4月~横浜市立脳血管医療センターリハビリテーション科

平成15年4月~済生会横浜市南部病院リハビリテーション科医長

平成20年4月~横浜市立大学附属市民総合医療センターリハビリテ
ーション科助教

平成27年4月~横浜市立大学附属市民総合医療センターリハ
ビリテーション科診療講師

<資格・役職>

日本リハビリテーション栄養研究会：会長

日本リハビリテーション医学会：代議員、指導責任者・専門医・
認定医

日本静脈経腸栄養学会：代議員・学術評議員・首都圏支部世話
人、指導医・認定医

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会：評議員、学会認定士

日本プライマリ・ケア連合学会：代議員

日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会：世話人

日本サルコペニア・フレイル研究会：世話人

誤嚥性肺炎に挑むパート2～広げよう！食べる幸せ～

一般社団法人 玉名郡市医師会立
玉名地域保健医療センター
医療連携室 看護師・社会福祉士 榎本 淳子



熊本県北部に位置する玉名地域保健医療センターは、1市4町からなる医師会立の病院として一般病棟53床 地域包括47床 医療療養病棟50床の全床開放型の病院である。

かかりつけ医だけでなく、行政・保健・福祉分野と常に連携を取りながら退院へ向けた支援を行っている。

連携室に所属した頃、偶然手に取った「第12回認知症ケア学会誌」の抄録集に「急性期医療での経口摂取へのアプローチと地域連携」と表されたシンポジウムでの小山珠美先生の抄録に一瞬にして心を奪われる。そこには、要介護高齢者が誤嚥性肺炎や低栄養と対峙しながらも「口から食べ続けたい！」という願いを支援できるような人的環境にするためには何をすればよいのか？「食のバリアフリー」を実現すべく支援方法と地域連携について～と記されていた。退院支援を行う、連携室の一員として社会福祉士として看護師として、「食」を通して患者さんの「生きていくこと」を支援したい。そんな思いに駆られた。

連携室所属の私が、口腔ケアや食事介助を行う中、ある退院支援の際に、施設の責任者から、食事中のムセがあることを理由にこれまで入所していた施設の再入所を断られることが続いた。それは、摂食嚥下に関わる職員の知識がないという人的な理由と、吸引器がないという環境的な理由からであった。

在宅における「食」への支援と、医療における「食」への支援の違いは何か？特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・有料老人ホーム等の職員を対象に「食」を支えていく上での意識調査を行った。そこには、「摂食嚥下に対する知識」の重要性を知りながらも、安全に食べ続ける入り口である「口腔ケア・口腔リハビリ」が不足しているという事実があった。

連携室に所属し、退院支援を行う私が、地域において「食のバリアフリー」を実現するために何が出来るか？食べる幸せが地域に広がるように明日から何ができるか討議したい。

～略歴～

榎本淳子（えのもとじゅんこ）

平成10年 看護師資格取得

平成18年 九州保健福祉大学社会福祉学部入学

平成20年 玉名市地域包括支援センター入職

平成23年 社会福祉士・介護支援専門員資格取得

平成24年 玉名地域保健医療センター 医療連携室 入職

平成26年 長崎嚥下リハビリテーション研究会認定 摂食・嚥下コーディネーター資格取得

誤嚥性肺炎に挑むパート2～広げよう！食べる幸せ～

社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑
主任介護士兼介護支援専門員 小山 竜也



2011年3月11日、私の住む宮城県気仙沼市を含めた東北太平洋沿岸に甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生。震災は、我々にとって様々な命題を与えました。震災を契機に、気仙沼・南三陸地域で更に顕在化した『口から食べられない』という問題について、山梨県牧丘病院院長古屋聡医師を中心に、病院・施設・在宅などの各方面が取り組んできた経験や情報を共有・論議し、更なる研鑽を積むという趣旨のもと、“気仙沼・南三陸『食べる』取り組み研究会”が発足し、毎月、ケース検討会等の定期ミーティングを開催するに至りました。この取り組みの中で、気仙沼・南三陸地域の摂食嚥下に対する意識や、技術面の向上は、震災前と比較すると凄まじい進歩につながっています。

当施設においても、震災前より「口から食べる」支援にこだわりを持ち、積極的に行ってきましたが、全国的に問題視されている、介護職員のマンパワー不足により、「入所者の食べたい」に、ブレーキをかけている現状がありました。この切実な問題を受け止めながらも、「入所者の食べたい」を叶える為にはどうしたらよいのか？その原動力となったのが、入所者の「幸せそうな笑顔」でした。食べられた事でADL・QOLの向上に繋がり、その幸せそうな笑顔を見て、私たちは喜びや達成感を感じる事が出来ます。これが私たちの仕事の醍醐味であり、モチベーションを支えてくれます。更に、小山先生のご指導が、私達の更なるやる気と自信につながりました。

本口演では、誤嚥性肺炎、マンパワー不足という問題に立ち向かい、現場の介護職員が、「食べられると思う」「食べさせてあげたい」という思いを発信し、それを叶える為多職種が連携し、胃ろうから3食経口摂取可能となった症例をご紹介します。

～略歴～

小山竜也（おやまたつや）

1980年 宮城県気仙沼市生まれ
2001年 3月 仙台福祉専門学校 福祉学科 卒業
2001年 4月 社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑 介護員
2004年 4月 介護福祉士資格 取得
2011年 2月 介護支援専門員資格 取得
2011年 4月 社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑
主任介護士兼介護支援専門員 現在に至る

誤嚥性肺炎に挑むパート2～広げよう！食べる幸せ～

当事者ご家族

奥山 昭子



私の母は4年半前、台湾を旅行中にくも膜下出血になりました。現地の病院で「目を開けなければ植物人間になる」と言われました。日本に帰国後、約1年半の辛い入院生活ののち、今は住み慣れた自宅で家族と共に暮らしています。全身は麻痺した状態にあり、気管にはスピーチカニューレが入っています。

3年前の母は、全く何も食べられませんでした。訪問の言語聴覚士さんがリハビリを1年行い、ティースプーン2分の1の味見がやっと出来るようになりました。

2年前、小山珠美先生との出会いがあり、母はお粥ゼリーが食べられるようになりました。夢のような出来事に家族は喜びに包まれました。しかし、当時の主治医は誤嚥性肺炎を危惧するあまり、『食べること』を否定しました。一方的に責められ、家族は追い詰められました。そんな時、母が「美味しい」と満面の笑顔で食べている姿を見て、このまま、『食べること』をあきらめてはいけないと強く思いました。

昨年の7月、第2回大会で母のことをお話する機会をいただきました。お話の後「頑張って下さい」と励まして下さった方がいらっしゃいました。思いがけない励ましに、とても勇気付けられました。同年9月、『食べること』を支援してくれる主治医、看護師さん、歯医者さんに出会いました。『食べること』が認められ、応援してくれる人達に囲まれて家族は前向きになりました。支援されることは温かく、心強いです。

今年に入り、理学療法士さんが変わり、車椅子のリハビリが好転しました。母の頑張りもあり、4月にはベッドサイドで端座位が出来ました。今年の目標は『立つこと』です。同じ時期に管理栄養士さんも加わり、お料理上手な母の味をゼリーで再現することに挑戦しています。慣れ親しんだ家庭の味を味わうことで、母の表情はより明るくなり、『食べること』を続けることで、母の体が良い方向に目覚めていくように感じます。『食べること』は楽しく幸せなことです。これからも1日1日を大切に、母に人として幸せな時間を過ごして欲しいと思っています。

一般口演

【小ホール】

座長：NPO法人口から食べる幸せを守る会 理事

気仙沼市立本吉病院・山谷歯科医院 歯科医師 一瀬 浩隆

演者：桜十字病院 看護師 建山 幸

演者：社会福祉法人 合掌苑 管理栄養士 平塚 三基誉

演者：気仙沼市立病院 看護師 佐藤 さと子

演者：由利組合総合病院糖尿病代謝内科 医師 谷合 久憲

【大会議室】

座長：日本医科大学 多摩永山病院 言語聴覚士 黄金井 裕

演者：社会医療法人 友愛会 豊見城中央病院 看護師 諸見里 亜紀子

演者：広島共立病院 看護師 中尾 加代子

演者：NPO法人口から食べる幸せを守る会 看護師 金 志純

演者：NPO法人口から食べる幸せを守る会 看護師 竹市 美加

【会場：小ホール】

全職員で取り組んだ口から食べるプロジェクト

発表者：桜十字病院 看護師 建山幸

共同演者：医師 安田広樹／管理栄養士 南里紗衣／事務局 北岡沙央理

<はじめに>当院はこれまで、低栄養患者に対し一般的な NST 活動を行ってきたが、口から食べていない患者の栄養管理に満足しているのは、医療従事者だけであった。平成 25 年 11 月に「口から食べるプロジェクトチーム」を発足。病院全体で、このプロジェクトに取り組むことにより、患者・家族・患者を取り巻く全ての職員が、口から食べる喜びを共感できるようになった事を報告する。

<活動内容>・口から食べる事の重要性を病院運営管理者に訴え、プロジェクトチームの病院バックアップを依頼した。病院取り組み目標に「口から食べるプロジェクト」の推進を取り込み、認識一致した。

- ・口から食べる大切さの理解を深めるため、全職員研修を実施。
- ・ポジショニングや食事環境の問題点を可視化するため、昼食時間のラウンドを実施。指摘事項に写真と提案事項を添え、現場へフィードバック。
- ・症例報告や研修会報告を掲示するブースを設置。

<まとめ>当院は設立時より、医食同源のコンセプトのもと、「食」に対するこだわりを持っていたこと、何でも一枚岩となりやり遂げる職員の一体感があった事も、プロジェクト推進の鍵となったと考える。プロジェクトチームが病院全体を巻き込んだ活動を行ったことで、職員一人一人が「口から食べる」を考え行動するようになった。結果、口から食べる患者が増え、患者・家族・職員の笑顔が見られる栄養サポートができるようになった。

.....
【会場：小ホール】

最期まで口から食べられる環境を作るための取組み ～笑おう・和もう・輪になろう～

発表者：社会福祉法人 合掌苑 管理栄養士 平塚三基誉

共同演者：栄養士 片桐朱里

高齢化社会が進む中、要介護高齢者の摂食嚥下の低下等により、食事を摂る行為そのものが困難となる方も増加傾向にある。食事摂取が困難な場合、医療行為にて経管栄養を選択することも可能であるが、「口から食べる」意欲、そのことによって得られる幸せを安易に奪って良いものだろうか？という疑問が職場で持ち上がった。そこで、法人内の各事業所および職種を超え、食を総合的に考える場として「ダイエット委員会」が発足した。委員会では食形態の内容を見直し、新たに「軟らか食」と「ソフト食」の導入を行った。また昨年度には小山珠美氏よりご指導を賜り、食事時の姿勢の取り方や食事が疲れない介助方法を実践したところ、摂取量と摂取時間に目に見える違いが見られた。以前の介助は、お客様（入居者）にはもちろん、職員にも負担が大きかったことに気づかされた。この有効な介助方法を、私たちダイエット委員会がコアとなって法人内での共有をスタートさせ、法人全体の質向上に寄与していくことも目的としている。これからもより一層、お客様一人一人にあった食環境を整えられるよう、多職種連携を図りながら学び続け、食のプロフェッショナルになることを目指していきたいと考えている。

【会場：小ホール】

気仙沼南三陸栄養サポート研究会の立ち上げ～震災から4年間の地域スタッフとの歩み～

発表者：気仙沼市立病院 看護師 佐藤さと子

共同演者：管理栄養士 山崎綾子／言語聴覚士 三束梨沙

作業療法士 和田友世／看護師 高橋智恵,尾形美紀

口から食べるということは、豊かに生きるための要素の一つである。高齢化が進む日本において、摂食嚥下障害サポートは重要な位置を占めている。2011年3月の大震災により気仙沼市は、津波や火事、ライフラインの断絶などにより大混乱となった。気仙沼市は宮城県最北端に位置し、‘陸の孤島’とよばれる地域である。地域住民、医療従事者も初めて経験する大震災であり、あらゆる物資の少ない中で医療を提供しなければいけない状況となった。そんな中、全国から多くの医療関係者に支援を頂き、摂食嚥下障害に関連する知識や技術を得る機会が増え、気仙沼の医療・介護・福祉に携わるスタッフの意識は大きく変化した。地域で働くスタッフ間で顔のみえる関係作りが進み、口から食べる取り組み研究会が立ち上がった。様々な相談ができる環境が整備され、定期的に事例検討会を開催している。当院では震災後NSTを設立し、その中で摂食嚥下サポートチームを作り活動をしている。院内での摂食嚥下に関する勉強会、実技研修を行い摂食嚥下障害患者へのサポートに力を入れている。さらに、地域スタッフと共に《気仙沼南三陸栄養サポート研究会》を立ち上げ、震災後毎年栄養フォーラムを開催してきた。今年5月にはKTSM実技セミナーを開催することができ、県内外から70名もの参加者を得た。今後も、気仙沼で安心して最後まで口から食べられるサポートができるよう取り組みを続けていきたい。

【会場：小ホール】

KTSM 実技セミナーから始まる地域連携

発表者：由利組合総合病院糖尿病代謝内科 医師 谷合久憲

共同演者：言語聴覚士 佐藤芳／栄養士 三浦景子

平成26年度、NPO 法人口から食べる幸せを守る会®に共催して頂き合計3回の実技セミナーが開催され、総勢200名以上が参加した。当地域ではKTSMの実技セミナーを軸に急性期病院で医師（研修医を含む）や介護者による食事介助を行うことで誤嚥性肺炎の軽減やADL低下を抑制する治療、退院後の誤嚥性肺炎による再入院の予防を行っている。在宅患者への医師、訪問看護師、ST、栄養士の同時介入により経口摂取を継続しながら入院を抑制する試みやショートステイ等の介護施設へのSTによる情報提供や技術移転、またカフェレストランにて重度摂食嚥下障害に健常者とバリアフリーな環境でソフト食(寿司懐石)を食べて頂く試みなども始めている。

【会場：大会議室】

食べることから患者の生活を取り戻す支援～人工呼吸器装着患者への食支援を通して～

発表者：社会医療法人 友愛会 豊見城中央病院 看護師 諸見里亜紀子

共同演者：看護師 山城美紀,赤嶺幸乃,屋宜小百合,大城清貴,小濱美穂

患者にとって入院生活は疾患の症状・治療により、これまでの生活とは異なった環境となる。そのため「食事」「睡眠」「呼吸」「排泄」「コミュニケーション」など生活が障害される事を多く経験する。当病棟も腎・膠原病内科病棟で食支援が必要な高齢者が多く入院しているが、看護師として急性期の治療に追われ、患者の生活を支援する援助の視点が不足している現状があった。「食事」の援助に関しては誤嚥による状態悪化の不安が先行し、病棟看護師から「食事介助が怖い」という声も聞かれた。そのため、入院患者の「食事」援助を病棟看護師が行っていくためには摂食嚥下障害の知識・技術から高めていくのではなく「口から食べる」ことの重要性を認識・理解し、病棟看護師の行動変容となる動機が必要であると感じていた。今回、呼吸器管理となり嚥下機能やコミュニケーション障害のある事例を通して「食べる」を支援する関わりにより、患者が食べることで喜びを得られ、新たな気力を作りだす力となる事を改めて実感する経験ができた。

これからも入院生活による非日常の生活を口から食べる事を支援することで、普段の日常に近づけることができるように患者の生活を支援していきたい。

【会場：大会議室】

食べる意欲を引き出すためのチームリハビリテーション

発表者：広島共立病院 看護師 中尾加代子

共同演者：医師 Wong Toh Yoon/言語聴覚士 蓑田直子,平尾純,中岡奈美

管理栄養士 遠藤由紀子/医療相談員 櫻下美紀

〈はじめに〉呼吸状態の悪化で経口摂取量および ADL の低下を認める患者さんが多く、リハビリテーションは重要な役割を果たし、経口摂取へのチームアプローチも大切である。今回はミキサー食注入を利用しながら食べたいという患者の思いを引き出し、他職種との連携でのリハビリテーションアプローチを報告する。

〈症例〉79歳の男性、右基底核梗塞の急性期治療後、リハビリテーション目的にて当院へ転院。

〈経過〉患者は急性期治療中、肺炎による呼吸不全を合併し、気管切開術後・胃瘻造設術後・膀胱留置カテーテル挿入状態で当院のリハビリテーション病棟へ転院した。入院後、3食ミキサー食を昼のみ可能な量の経口摂取、食べ残しは注入とした直接訓練を開始した。初めは食欲なかったが、リハビリスタッフとの連携による食事への援助を行い、経口摂取量は徐々に増えた。ADLも向上し、自分で起き上りや移動も可能となった。結果的に入院2ヶ月半で普通食の摂取まで改善し自宅退院となった。

〈考察〉身体的機能低下をした患者の状態を把握し、回復を目指す他職種とのチーム連携が重要である。今回、多職種との連携で食べる意欲と ADL の低下をきたした患者のリハビリテーションを行った。食べる意欲を引き出しながら嚥下リハビリテーションを実施すれば ADL の上昇および良好な経口摂取に繋がると考える。

【会場：大会議室】

KTSM 実技セミナーにおけるケア技術の向上への教育的アプローチの成果（1）

～アンケート調査からみる実技セミナー開催の成果と今後の課題～

発表者：NPO 法人口から食べる幸せを守る会 看護師 金志純

共同演者：看護師 小山珠美,竹市美加,甲斐明美,川端直子／言語聴覚士 黄金井裕

【はじめに】KTSM 実技セミナーは、2013年7月～2015年3月までに計13回開催し、受講生は延べ人数393名となった。その効果について受講者へアンケートを実施し、実技セミナー開催の成果と今後の課題が示唆されたので報告する。

【方法】KTSM ホームページより Formmailer Business 版を使用しアンケート調査を行った。アンケート送付可能な276名中、144名の回答者（回収率約52%）から得られたアンケート結果をまとめた。調査期間は平成27年4月15日から4月25日までの11日間とした。

【結果】職種は看護師、所属施設は病院が最も多かった。1.スキルアップについて100%が繋がったと回答あり、姿勢調整、安全で効率的な食事介助が最も多かった。2.患者さんの変化について67%が変化あり、内容は食事時間の短縮、食事摂取量が増加したという回答であった。3.自身の変化については95%が変化あり、知識や学習課題、食事介助のやりがい・楽しさなどが挙げられていた。4.組織変化については44%が変化あり、チームの活性化、周囲関係者のスキルアップなどであった。

【考察】本実技セミナーは、受講者にとって食べることをサポートするための知識と技術の向上に大きく貢献でき、摂食嚥下障害患者支援の現状改善に繋がったと考える。また、サポートをより充実させていくためには、組織変革を行うための教育力やマネジメント力が必要であり、質の高い認定資格者を輩出していくことが今後の課題と考える。

【会場：大会議室】

KTSM 実技セミナーにおけるケア技術の向上への教育的アプローチの成果（2）

～アンケート調査からみる一般受講者と実技認定者との比較検討～

発表者：NPO 法人口から食べる幸せを守る会 看護師 竹市美加

共同演者：看護師 小山珠美,金志純,甲斐明美,川端直子／言語聴覚士 黄金井裕

【はじめに】KTSM では、平成26年度より経口摂取に必要なケア技術の啓発や指導力向上を目的とした実技セミナーを全国で13回行ってきた。平成27年度からは組織でのマネジメント力を有した人材育成を目的として実技認定制度を始動した。今回、一般受講者と実技認定者に対してアンケート調査を行い、両者を比較検討したので報告する。

【方法】メールアドレスが登録されている実技セミナー受講者276名に対して、Formmailer Business 版を用いてアンケート調査を行った（回収率52%）。調査内容は、基本情報に加えて、受講後の実務における自分自身、対象者、組織の変化等とし、一般受講者（A群）と実技認定者（B群）で比較検討した。統計ソフトは、SPSS Statistics 19を用いて、有意水準は5%未満とした。

【結果】A群とB群の比較では、自分自身における変化に差はなかったが、対象者および組織の変化において有意差が認められた（ $P<0.001$ ）。対象者の変化があったと回答している内容は、食事時間の短縮、

むせの軽減、自立度であった。組織的变化では、関係者のスキルアップ、チーム力の活性化、在院日数短縮などが挙げられていた。

【考察】実技認定者は、一般受講者と比較して、アドバイザーの経験や継続的な学習を重ねて、口から食べる支援技術のスキルアップを図っていた。また他者への指導力向上をはかり、対象者の変化を意図的に実感しつつ、組織的なマネジメント力へと繋げていた。今後も対象者や組織に変化を来すことのできる教育的アプローチを行い、口から食べる支援スキルを有した人材の輩出に力を注ぎたい。

～メモ欄～

ハンズオンセミナー

担当責任者：川端直子・竹市美加・小山珠美

1. 目的

安全でセルフケア能力を高める食事介助のスキルアップを図ることを目的とする。

2. 日時

2015年7月11日 11:10～12:20（70分）＊受付は10:50～

3. 場所

神奈川県民ホール 6F 大会議室 受付：大会議室入口

4. 受講費

1,000円

5. 各自で持参していただくもの

・大きめのスプーン（カレースプーンなど） ・筆記用具 ・フェイスタオル1本

6. 内容

- ①集中して食べるための環境調整
- ②安定した姿勢を保つためのシーティング
- ③認知機能を高めるための視覚・聴覚・触覚などの五感活用
- ④捕食しやすく舌への有効な刺激となるようなスプーン操作
- ⑤食器やスプーンを手で効率的に操作するためのテーブルの活用
- ⑥セルフケア能力を高める捕食動作アシスト

7. スケジュール

時間	内容
10:50～11:10	受付：大会議室
11:10～11:15	オリエンテーション、ファシリテーター紹介
11:15～11:25	演習1：体験学習
11:25～11:40	全体講義
11:40～11:50	演習2：捕食介助方法
11:50～12:10	演習3：①シーティングの実際②安全で効率的な食事介助方法③セルフケアを高める介助方法
12:10～12:20	まとめ・質疑応答

8. セミナーの構成と展開

- ・1グループ6～7名として、各グループにファシリテーターを1名配置します。ファシリテーターは、当法人によるKTSM実技認定者です。演習中の食事介助スキルにおけるアドバイスや演習展開のナビゲートを行います。
- ・演習1では、個人および2人1組となり、体験学習を行います。
- ・演習2・3では、テーブル使用や車椅子での食事介助スキルを学習します。

9. ファシリテーター:KTSM実技認定者

氏名	所属	職種
井野 美穂子	社会医療法人熊本丸田会熊本リハビリテーション病院	看護師
大城 清貴	友愛会 豊見城中央病院	看護師
甲斐 明美	社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院	看護師
加藤 節子	医療法人光風会 北山病院	看護師
川端 直子	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立リハビリテーション病院	看護師
児玉 秀樹	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	歯科医師
近藤 奈美	みなと医療生活協同組合 協立総合病院	看護師
嶋津 さゆり	社会医療法人熊本丸田会熊本リハビリテーション病院	管理栄養士
杉本 みほ	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院	看護師
竹市 美加	NPO 法人から食べる幸せを守る会理事/ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師
砂山 明子	都立駒入病院	看護師
藤井 博美	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	看護師

謝 辞

本大会の開催にあたり、下記の皆様にご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

大会長 小山 珠美

【共催】

- ・株式会社クリニコ ・日清オイリオグループ株式会社
- ・ラックヘルスケア株式会社 ・渡辺商事株式会社

【企業出展一覧】

- ・イーエヌ大塚製薬株式会社
- ・株式会社ヘルシーネットワーク
- ・カイゲンファーマ株式会社
- ・キッセイ薬品工業株式会社
- ・株式会社クリニコ
- ・キューピー株式会社
- ・株式会社大塚製薬工場
- ・東洋羽毛首都圏販売(株)横浜営業所
- ・株式会社オーラルケア
- ・日清オイリオグループ株式会社
- ・株式会社土倉
- ・ニプロ株式会社
- ・株式会社天柳
- ・ニュートリー株式会社
- ・株式会社東京技研
- ・ビーンスターク・スノー株式会社
- ・株式会社ニシウラ
- ・ラックヘルスケア株式会社
- ・株式会社フードケア
- ・渡辺商事株式会社
- ・株式会社明治

(50音順)



おいしく、たのしく、嚙下りハビリのお手伝い
摂食嚙下りハビリ食のラインナップ紹介

様々な製品を取りそろえています。

毎日違う味が楽しめる10種類の味

エンジョイゼリー



- プレーン
 いちご コーヒー
 チョコレート
 あずき味
 バナナ味
 ゆず 抹茶
 スイートポテ味
 りんご味

300 kcal 220 g

個別の栄養補給に適した食べきりサイズ

エンジョイカップゼリー



- いちご味 キャラメル味
 あずき味 コーヒー味
 りんご味 マンゴー味

80 kcal 70 g

無理せず食べられる40g

小さなエンジョイハイカロリーゼリー



りんご味 もも味 100 kcal 40 g

トロミの質の向上とはやささを実現

とろみ調整食品



3g x 50本 300 g
 800 g 2 kg



他にもおいしく栄養が摂れる、豊富なラインナップがそろっています。資料・サンプル等のご請求はお気軽に。

☎ 0120-52-0050 クリニコ 検索 <http://www.clinico.co.jp>

森永乳業グループ病態栄養部門
株式会社 クリニコ

日清 MCT パウダー & オイル

エネルギー
補給に

MCT(中鎖脂肪酸油)は、
一般的な植物油と比べて、
以下のような特長を持っています。

消化・吸収がよい

エネルギーになりやすい

パッケージが
新しくなりました

パッケージが
新しくなりました



250g

13g×30パック

800g



180g

450g

日清MCTパウダーの特長

①まぜるだけでエネルギーアップ

温かいものや冷たいものにも溶けるので、
料理や飲み物にまぜるだけで簡単に無理なく
エネルギーが補給できます。

②たんぱく質ゼロ

たんぱく質をまったく含んでいません。

③油脂成分はMCT100%です

油脂成分は、MCTだけを原料に使用しており、長鎖脂肪酸油
(LCT)はまったく使用していません。

④用途にあわせて3タイプ

栄養計算しやすい13g分包(1包あたり約100kcal)、使い
やすい250g缶入り、お得な800g袋入りの3タイプがあり
ます。



日清MCTオイルの特長

①すっきり、クリアでたまらない

透明で味やにおいが少ないので、素材の風味や
外観を損ないません。

②母乳にも含まれる天然成分

日清MCTオイルは、ココナッツやパームフルーツに含まれて
いる中鎖脂肪酸から構成される油脂です。

③日清MCTオイルはMCT100%

日清MCTオイルは、MCTだけを原料に使用しており、長鎖脂
肪酸油(LCT)はまったく使用していません。

④酸化安定性にすぐれています

中鎖脂肪酸は、二重結合をもたない飽和脂肪酸です。酸化の
原因となる酸素と結合しにくいので3年間おいしくお召し
上がりいただけます(未開封時)。



お問い合わせ先



日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号

TEL.03-3206-5636 FAX.03-3206-5687

●ホームページアドレス <http://www.nisshin-oillio.com>

食べられない…

…ひと口でも食べてほしい

そんなときには…

用途別3タイプ

たとえば、魚や肉のミキサー食の代わりにコレ。食事があまり摂れないときに一品を置き換えて。

おきかえタイプ

少量
×
高栄養

極少タイプ

とにかく少ない量で栄養を！そんなとき、ほんの少量で高いカロリーと栄養を補給できます。

底上げタイプ

これ以上食べられない！というときに、ボリュームはそのまま、栄養価だけをガンとアップします。

ニュートリーの【少量×高栄養】食品があります。

底上げタイプ

おきかえタイプ



アイオールソフト



ニュートリー-コンク2.5

極少タイプ



スイ・クレス ハイブチゼリー

キウイ
フルーツ風味
新発売!

NÜTRI: ニュートリー株式会社

<http://www.nutri.co.jp>

東京支店 / 〒104-0033 東京都中央区新川2-1-5 THE WALL 4F TEL.03-3206-0107(代) FAX.03-3206-0108 e-mail info@nutri.co.jp

53_0078 CA

本日サンプル配布・試飲実施中!!



お茶屋がつくった とろみつき ほうじ茶パウダー



イメージキャラクター
とろみちゃん

<安心・安全>

1. 国産の茶原料を使用し、本格的な味わいです。
2. 国内の施設で多く使用されている、機能の優れたとろみ調整剤を使用。
3. 安心の道内製造で北海道の工場の一つ一つ作っています。

<簡単・便利>

1. 一度で「簡単」「手間いらず」！溶かすだけなので手間が掛かりません。
2. 顆粒タイプでさっと溶けてダマになりにくい！水でもお湯でも大丈夫です。
3. とろみ段階1～3までを使用量に応じて「美味しく」入れられます。

便利!

1杯ずつでなく、まとめて大量に作っても、
ダマにならず、均一のとろみ茶を作る事
ができます!

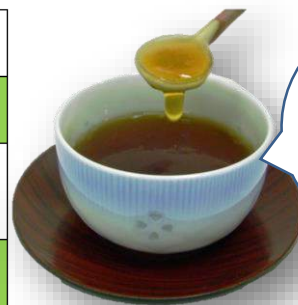
便利!

一度とろみがつくと粘度が長期間
安定する ため、とろみ茶の作り置き
もOK!

日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類2013と当社商品の使用量の目安

	段階1	段階2	段階3
当商品の使用量目安	スプーン1杯(2g)	スプーン1杯半(3g)	スプーン2杯(4g)
とろみ度合	スプーンを傾けると 流れ落ちる	スプーンを傾けると とろとろと流落ちる	スプーンを傾けても、 形状がある程度 保たれ流れにくい。
粘度(mPa・s)	50~150	150~300	300~500
LST値(mm)	36-43	32-36	30-32

※粘度・LST値は自社基準(日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類2013の基準)に準ずる)



カフェインの
少ないほうじ
茶! お薬を飲
まれる方もご利
用頂けます。

※写真は実際に当商品を使用したイメージです。



株式会社 お茶の土倉

北海道札幌市白石区菊水3条5丁目5番18号
お問い合わせ:011-811-5121(受付時間8:30~17:30)

赤ちゃんから高齢者までの食事をサポート

ご家庭向け(宅配・通販)

医療分野で培った信頼をご家庭にお届けします

医療分野で培った信頼



フー ド ハー ト
0120-210-810

横浜市金沢区幸浦2丁目12-9
TEL 045-790-3783 FAX 045-790-3784

ハートフルフード

検索

<http://heartfulfood.jp/>

医療・介護・福祉関係事業者向け

たしかな情報とこだわりの商品を安心とともにお届けします



全国病院用食材卸売業協同組合加盟

渡辺商事株式会社

本 社 **TEL 045-790-3785** 横浜市金沢区幸浦2丁目12-9
FAX 045-790-3789

湘南営業所 **TEL 046-238-3505** 海老名市中野2丁目23-1
FAX 046-238-3504

渡辺商事

検索

<http://www.ws-k.co.jp/>

WatanabeSyoji 全国病院用食材卸売業協同組合加盟 渡辺商事株式会社

NPO法人 口から食べる幸せを守る会[®]

～会員募集～

NPO 法人口から食べる幸せを守る会は、2015 年度の正会員、賛助会員を募集しております。当 NPO 法人の趣意に賛同して下さる方は、内容をお読み頂きホームページからお申込みください。

～入会金・年会費～

【正会員】

個人:【入】3,000 円 / 【年】7,000 円

団体:【入】10,000 円 / 【年】30,000 円

【賛助会員】

団体:【入】10,000 円 / 【年】50,000 円

～会員メリット～

- ・当法人主催研修会参加の優先
- ・当法人主催研修会参加費の割引
- ・会員限定会報誌・メール配信
- ・賛助会員のホームページリンク
- ・賛助会員との共同啓発事業 等々
- ・正会員(団体)・賛助会員は大会、研修会等に所属職員 3 名まで会員料金でご参加いただけます。



NPO 法人口から食べる幸せを守る会

HP : <http://ktsm.jimdo.com/>

Mail : npoktsm@gmail.com



風が吹いている

歌：いきものがかり

作詞：水野良樹／作曲：水野良樹

時代はいま 変わっていく 僕たちには願いがある
この涙も その笑顔も すべてをつないでいく

風が吹いている 僕はここで生きていく 晴れわたる空に 誰かが叫んだ
ここに明日はある ここに希望はある君と笑えたら 夢をつなぎあえたなら
信じあえるだろう 想いあえるだろうこの時代を 僕らを この瞬間(とき)を

言葉にできないこと 涙が溢れることふるえる心で感じたすべてが
僕のいままでをつくってきたんだ 出会いと さよならとが 決意(おもい)を強くさせた
手を振り誓った あの日があるから 僕らはここにいるんだ
優しい歌 聴こえている 背中を押す言葉がある このいのちよ この一瞬よ 誰かの光になれ

風よ吹いていけ 君とともに生きていけ 晴れわたる空が 悲しくなる日も
ひとりじゃないんだ 声はそばにある 君と笑いたい 夢を分かちあいたくて
歌いあえるように 奏であえるように この時代を 僕らを この瞬間(とき)を

強さを手にするより 弱さを越えたいんだよ
守りたいものから 逃げたくないんだ つぼみはそこにあるんだ
愛しいひと 忘れはしない 胸にやどる誇りがある
このさだめよ この勇氣よ 僕らの望みとなれ

風のなかにいる ここに陽はまた昇るよ ぶつけあう日々に こたえを築こう
この時代を たがいを この瞬間(とき)を
たくされた“今”がある 歩むべき道がある はじまりのつづきを 生きている
この胸のなかに きずなはあるんだよ ずっと ずっと

風が吹いている 僕はここで生きていく 晴れわたる空に 叫びつづけよう
新しき日々は ここにある ある 風よ吹いていけ 君と夢をつなぎたい
愛しあえるだろう つくりあえるだろう
この時代を 僕らを この瞬間(とき)を
La La La…



発行日：2015年7月11日

第3回NPO法人口から食べる幸せを守る会 全国大会 in 横浜 プログラム・抄録集

発行責任者：NPO 法人口から食べる幸せを守る会®

※本誌の無断コピーや使用については著作権の関係上、固くお断りいたします